

平成28年度 英語が好きになる学校づくり 取組報告書

事務所名	沿岸南部	学校名	大船渡市立末崎小学校	TEL	0192-29-3928
------	------	-----	------------	-----	--------------

教員も児童も一緒に英語を楽しみたい! そのための研修と指導の在り方

【ねらい】

1 授業指導力に関わって

- (1) 全職員が、「外国語活動」の意義や目標、内容等について理解する。
- (2) 学区内の中学校と「情報交換（授業参観・教材を知る）」・「交流（特に教員同士の交流）」において小中連携を図る。
- (3) 教材“Hi, friends!”（特に表紙の意味・単元構成等）について理解する。
- (4) 「外国語活動」は、なぜ専科教員ではなくHRTが進めるのかを理解する。
- (5) HRTは「英語を使うモデル」であることを自覚し、役割を果たす。

2 英語運用能力に関わって

- (1) 6つ以上の褒め言葉を英語で言うことができるようにする。
- (2) “Stand up, please.” “Open your textbook to page~.”等の基本的な指示表現を使うことができるようにする。
- (3) コミュニケーションを豊かにする非言語（表情・ジェスチャー）を大事にしようとする。
- (4) 学級経営を充実させ外国語活動を支える。

【具体的な取組】※12月上旬現在

1 課題共有（5月）

職員会議において、「英語が好きになる学校づくり取組計画書」・「校内研修計画書」を配布し、重点課題と取り組み、計画について共有した。

2 外国語活動における教員の意識調査（8月）

8月に「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査」の中から「外国語活動に対する意識」を同様の内容で実施した。「おおよそのイメージはつかめている」・「準備などに負担感がある」・「自信を持って指導している」の3点は平成26年度の全国の結果と同じ傾向だった。また、「児童と一緒に楽しんでいる」については、本校は「そう思う・どちらかといえばそう思う」が100%となり、全国よりもよい傾向となっている。しかし、「英語が苦手である」は、全国よりも約13%落ち込んでいることがわかった。

3 外国語活動における児童の意識調査（8・9月）

最初の外国語活動の時間に、5・6年生とも「外国語を使って何をしたいか。そのためにどうすればいいか。」を考えさせ、“Hi, friends!”に記入してから学習を始めた。

8月に「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査」と同様の内容で実施した。5学年・6学年の結果に大きな差が見られた。たとえば、「英語が好きですか」の問いに対し「好き・どちらかといえば好き」と答えたのは5年生が87%、6年生が30%であった。5年生は上記調査結果の全国傾向とほぼ同じかそれ以上に良い結果の項目がある。一方、6年生はほとんどの項目がマイナス傾向であった。ただし、「あなたは、英語が使えるようになりたいですか。」に「そう思う・どちらかといえばそう思う」と答えたのは5年生が100%、6年生が79%で、この項目は6年生も全国平均を上回っていた。必要性は感じていても、「めんどくさい」「恥ずかしい」などの気持ちが6年生には大きく影響していることがはっきりした。そのため、言語・非言語でコミュニケーションを図ろうということに前向きになれない実態があった。

そこで、6年生には9月に「外国語活動の勉強で目ざすことをはっきりさせよう」というプリントを配付し、「①外国語活動が好きですか。②それはなぜですか。③英語を使ってしてみたいことは何ですか。」と自分を見つめさせ、さらに「④そのためにどうしますか。(聞く・話すの観点も与える)」と目標の自己決定を促した。

また、現状よりも児童が意欲的に学習に取り組めるよう、②をもとに授業の組み立てをさらに検討した。

4 授業指導力向上のための研修

(1) 学区内中学校における英語の授業参観 (5月)

小中連携交流会で各学年の授業が公開された。1学年が英語の授業であった。全職員が必ず参観するようにし、主に①外国語活動を学習してきた子どもたちがどのように英語を学習しているか②4観点で行われている英語の学習の流れの2点を確認した。

(2) 小学校外国語中核教員研修会伝講 (7月)

「外国語教育の充実と2020年の英語科に向けて」

1 教科化への準備は、今の外国語活動の充実

(1) カリキュラムの構成要素と外国語活動

(2) 「Hi, friends!」を知る

①表紙の意味

②単元構成

(3) 学級担任が授業を進める理由

2 教科化に向けての動き

(1) 国として

(2) 岩手県として

(3) 実際は(教科書はどうなるの?)

3 教科化に向けて小学校教員に求められていること

今の外国語活動の充実と英語指導力・英語運用能力の向上

(1) 演習 クラスルームイングリッシュ

(2) 演習 歌の活用

※各演習後に「英語教育推進リーダー中央研修」

DVD教材を活用して、演習したことの良さと必要性・整合性についてふり返った。



(3) 学区連携授業参観 6年授業公開 外国語活動 Lesson5 「Let's go to Italy.」第4時 (11月)

学区内の中学校教員7名と本校全職員が参観した。中学校の先生方とは外国語活動について協議はできなかった。しかし、本校職員には研究主任が手立てを明示した所感用紙を配付し、学びを共有できるようにした。

なお、第3時は「平成28年度小学校英語が好きになる学校づくり事業授業研修会」において行った。本校教員は参観できなかったが、指導案を共有した。

【本校職員の所感用紙より】

〈手立て1 指示・褒め言葉は短く、わかりやすく。意図的に非言語も多用する〉

- 1つ1つの発問・指示が短くてわかりやすかった。
- 教師の指示・様々な提示がジェスチャーを加えた英語で、子どもたちは自然と英語に慣れ親しむ環境ができた。
- 指示が子どもたちに理解されていて、日々の実践の積み重ねの大きさを感じた。
- どの子も誉められると嬉しい。にんまり照れているのもまた、6年生らしくて微笑ましかった。褒め言葉は大切だと思った。
- 英語と日本語とを必要に応じて混ぜている。
- 常に表情豊かで大きな動作がよい。そして、間髪入れない褒め言葉がよい。
- 子どもたちをその気にさせるリズムとテンポある指示がよかった。



〈手立て2 単元のゴールと本時のゴールに向かう
スモールステップの指導〉

- △ゴールを示したが、時間が長くなかったか。
- △自分の好きな国を伝える際には、さらに子ども達一人ひとりに自信をもって話させるために例示を多くし、一人ひとりが言い方を確定した状態でグループごとの紹介に入れば、さらにコミュニケーションが深まったと思う。



〈手立て3 自分をみつめ、友達にも目を向けるふり返りカードの工夫〉

- ふり返りカードを毎時間記入することによって、今日の成果や友達の頑張りなどについて確認できていた。
- 笑顔・声の大きさ・抑揚・うなずく・見る・向くは、外国語の授業だけに限らず、日々取り入れていくことであると改めて感じた。
- 意欲につながっていると感じた。
- ふり返りカードに視点が記されているので、ふり返る時の手がかりになっていた。



〈その他〉

- 自らリーフレットを作り、紹介しようとする活動を通して、児童は様々な国に興味をもち、世界に目を向ける良い機会になると思った。
- キーワードゲームや国あてクイズ等を通して、じっくりと聞こうとする態度が育ってきている。
- 班活動では、すらすら言えないでいる友達に対して、その部分を補ってあげようとする児童が見られた。
- 紹介の視点の確認（話す…笑顔・抑揚・声の大きさ、聞く…うなずく・見る・向く）がよかった。
- △紹介の練習1分は短くなかったか。



※冬休み中にマイクロティーチング、2月に学区内中学校英語担当教員との授業を予定。

5 英語運用能力向上のための研修

水曜日 16時30分からの5分間程度で実施した。行事等への取り組み期間は実施しなかったため、12月上旬までで計7回、職員室や教室で行った。内容は次の通りである。

- ① 6月 8日 「誉め言葉こそ英語で！ ～たくさん たくさん 誉め言葉のシャワーを～」
- ② 7月 6日 「使いたいね、こんな表現 その1 丁寧な言い方を大事に」
- ③ 7月13日 「使いたいね、こんな表現 その2 励ます」
- ④ 10月 5日 「“Hi, friends!”で行うゲーム
その1 キーワードゲーム」
- ⑤ 10月26日 「“Hi, friends!”で行うゲーム
その2 ミッシングゲーム」
- ⑥ 11月 2日 「“Hi, friends!”で行う
Let's Chant」※電子黒板操作含む
- ⑦ 12月 7日 「外国語活動で使える BASIC CLASSROOM
EXPRESSIONS その1」



※「小学校外国語活動 研修ガイドブック」付属のCD活用

6 学級経営充実のための手立て

外国語活動をはじめとして、各教科等の学習を支えているのは学級経営である。そこで、全学年で6月と11月に「よりよい学校生活と友達作りのためのアンケート」である「Hyper-QU」を実施した。6月に実施した結果を夏休み中に分析し、学級集団の特徴や今後の方 策について全職員で共有した。6月実施の結果から見える第5・6学年児童の姿は次の通りである。

	学級集団	学校生活意欲 (低・中・高で人数が多い段階)			ソーシャルスキル (全国比)	
		友達関係	学習意欲	学級の雰囲気	配慮のスキル	かかわりのスキル
5年生	親和的なまとまりある集団	高	高	高	105	108
6年生	かたさのある学級集団	高	低	高	98	92

この結果・分析も踏まえながら、「コミュニケーション能力の育成」の要の1つが外国語活動であると一層意識して指導にあたるようにした。

【成果】

- 1 5月の早い段階で重点課題と計画を共有したことにより、これからの外国語活動に求められていることや岩手県としての動きをつかみ、全教員が「外国語活動」の担い手になるという意識を高め確認して研修を進めることができた。
- 2 児童の意識調査や「Hyper-QU」の結果も踏まえて授業の見直しを図ったことで、調査実施前よりも児童の学習意欲や態度が向上した。
- 3 教員の意識調査を実施したことで本校がその時点で抱える課題がさらに明確になり、職員のニーズに合わせた「英語運用能力向上研修」に近づけることができた。
- 4 「授業指導力向上のための研修」では、小中連携、英語科に向けた理論研・演習、手立てはどうだったかという視点ももちながらの授業参観等により、教員の指導力向上と英語科を見据えた外国語活動への意欲の向上を図ることができた。